

相模原市公共交通整備促進協議会は、相模原市、市議会、自治会連合会、市内各種団体で構成され、昭和44年の設立以来、相模原市域の鉄道、バス交通等、公共交通の整備促進などを目的に鉄道、バス及びタクシー事業者への要望活動や、公共交通の利用促進に向けた啓発活動等を行っています。

みんなで使おう公共交通

市内における鉄道、バスなどの公共交通の利用者は年々増えておりますが、移動手段の割合を比較すると、自動車の利用者が最も多い状況です。

人口減少や少子高齢化が進行する中、交通弱者や来訪者などの移動手段を確保するため、公共交通の重要性はますます高まっております。

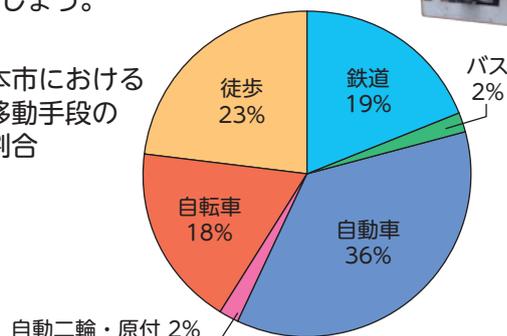
この機会に公共交通のメリットを知り、みんなで利用しましょう。

○市内の鉄道、バスの利用者数の推移

年 度	鉄道利用者数 (駅乗降者数)	バス利用者数
平成20年度	658,254人	77,945人
平成25年度	676,643人	82,213人
平成29年度	686,557人	86,704人

(一日平均利用者数)

○本市における移動手段の割合



出展：相模原市の人の動き 平成20年パーソントリップ調査から



公共交通のメリット

安全で安心

鉄道、バスの事故件数は、自動車の約300分の1であることから、安全性が高い交通手段と言えます。(警察庁交通局「平成29年中の交通事故の発生状況」により試算)



健康の増進

鉄道やバスを利用した場合、乗り換えなどにより、自然と徒歩が増え、運動量が増加します。

自動車に比べ、鉄道やバスを利用した場合、消費カロリーが約2倍になるという研究結果もあります。

出展：日本体育協会スポーツ科学委員会「日常生活動作によるエネルギー消費量」より算出



環境にやさしい

1人当たりのCO₂排出量は、電車は車の約9分の1、バスは車の約3分の1のため、環境にやさしい交通手段と言えます。(1人を1km運ぶのに排出されるCO₂を比較した場合)



渋滞の緩和

鉄道やバスへの利用転換が図られることにより、自動車利用者が減少し、駅周辺などの交通渋滞が緩和されます。



バスの増便について

4月から相原高校が職業能力開発総合大学校相模原キャンパスの跡地へ移転することに伴い、通学対応の一環として、橋本駅南口～峡の原車庫間のバスが増便されます。

内容：登校時(7時台～8時台) 5便増
下校時(16時台～18時台) 3便増

相原高校へのバス路線



UDタクシー（ユニバーサルデザインタクシー）の普及促進

UDタクシーは、高齢者、車椅子をご利用の方、大きな荷物を持った方など、誰もが利用しやすいみんなに優しい新たなタクシー車両です。共生社会の実現や、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向け、今後UDタクシーの需要が高まることが見込まれることから、さらなる普及を図るために相模原市では、平成31年4月からUDタクシーを導入する市内事業者への補助制度を開始します。

補助内容：導入車両1台につき、最大10万円の補助（平成31年4月から2年間）



UDタクシー（市内）

相模線沿線ハイキングが市内で開催されました

平成30年10月13日（土）に相模線沿線ハイキング（相模原コース）が神奈川県、相模線沿線市町、経済団体主催で開催されました。上溝駅が最寄り駅の横山公園を出発し、てるて姫の里口マン探訪の小路、上溝さくら公園、道保川公園など市内各所を通り、駅舎が新しくなった番田駅までのコースのハイキングに多くの方が参加されました。



駅の安全対策が進んでいます

平成28年（2016年）に国土交通省が「駅ホームにおける安全性向上のための検討会（中間とりまとめ）」において1日の利用者数が10万人以上の駅を優先してホームドアの整備促進を図るとの整備方針を示したことから、各鉄道事業者ではホームドアの設置などホーム上の安全対策を進めています。市内の駅では、小田急電鉄が相模大野駅へホームドア設置を予定しており、2022年までの設置を目標としています。また、JR東日本が2025年度末までに「駅の乗降人員等を考慮し、120駅程度のホームドアの整備を進める」とした線区には、横浜線も含まれています。

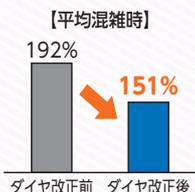


スマートホームドア®（町田駅）

各鉄道事業者の動き

《小田急電鉄》

代々木上原駅から登戸駅間の複々線化の完成により、混雑率が大幅に緩和され、速達性も高まりました。



新聞・雑誌を楽な姿勢で読むことができる

《京王電鉄》

平成31年2月22日より京王ライナーの朝間時間帯上りの運行が始まりました。



《JR東日本》

平成30年3月、JR相模線番田駅がリニューアルされ、より便利に安全に利用できるようになりました。



要望活動を実施

協議会では、公共交通の利便性の向上に向けて、平成30年11月から平成31年1月にかけて、各交通事業者へ要望活動を行いました。

《これまでの要望活動の主な成果》

- ・京王線橋本駅のCPラインの整備
- ・夜間の下りのみであった京王ライナーの朝間時間帯の上りの運行開始（平成31年）
- ・JR相模線番田駅の改修
- ・ノンステップバスの導入（平成30年度末101台）

主な要望内容

- JR東日本横浜支社
横浜線の輸送力増強、相模線の複線化等
- JR東日本八王子支社
中央本線の輸送力増強等
- 小田急電鉄
小田急線の輸送力増強及び多摩線の市内への延伸等
- 京王電鉄
京王相模原線の輸送力増強等
- 神奈川中央交通
輸送計画の改善、バリアフリー施策の促進等
- 神奈川県タクシー協会相模支部相模原地区会
輸送力増強、利用者サービスの向上等



要望活動の様子（小田急電鉄）

都市交通施設整備基金にご協力を

相模原市では、都市交通施設の整備にかかる費用の一部にするため、平成20年度から基金の積立を行っており、市民の皆様や企業などからの寄附を受け付けております。詳しくは事務局までお問い合わせください。